

令和4年度 第3回吉野町教育振興審議会 会議録

日 程 : 令和5年2月27日(月) 午後7時00分～
場 所 : 吉野町中央公民館2階 第3研修室
出席者 : 奥田委員、杉村委員、吉寄委員、河崎委員、南辻委員、米谷委員、山下委員、
木谷委員、吉中委員、山田委員、森本委員、中山委員
事務局
土居教育長、上林教育次長、細川、中前

1. 開会

事務局 皆様にはご多用の中、出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから「令和4年度 第3回吉野町教育振興審議会」を開催させていただきます。私は、本日の進行を務める吉野町教育委員会事務局次長の上林です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日、2名の委員から欠席の連絡を頂いています。また、1名の委員はオンラインでの参加となっています。どうぞよろしくお願ひ致します。

本日の第3回目吉野町教育振興審議会は、本年度最終となります。内容につきましては、お手元の会議次第をご確認下さい。「審議案件」といたしまして、(1)吉野町立認定こども園の将来的なあり方検討について(案)、(2)吉野町立認定こども園の将来的なあり方検討(答申)について、(3)その他についてでございます。

前回ご意見頂いた内容を基に、事務局で案を作成頂しました。その案について審議(1)でご審議頂きまして、案をご承認頂いた後、審議案件(2)で、吉野町教育振興審議会から、吉野町教育委員会に対して答申を行って頂く流れになります。

資料の「会議次第」と【資料1】については、事前に配布させて頂いています。机の上には、本日の出席委員名簿と【資料1】(案)差し替えを置かせて頂いています。【資料2】につきましては、審議(2)で配布させて頂きます。

2. 教育長挨拶

教育長 皆様、こんばんは。今日は、2月27日、明日で2月が終わりということで早いなあというのが実感です。3月に入りますと、1日には高等学校の卒業式がありますが、本町の中学校の卒業式が3月15日、小学校の卒業式が3月23日、今、審議頂いている両こども園の卒園式が3月18日におこなわれます。本年度も最後締めのところまでやってまいりました。子ども達も次の年度に対していろんな期待をもって卒園式を迎えてくれることと思います。

今まで、第1回第2回の委員会で委員の皆様からいろいろな意見を聞かせ

て頂きました。教育専門の先生方の知見、保護者の皆様方の思い、そのような思いを実際に聞かせて頂くことがものすごく勉強になりました。そういうふうを考えているんだなあ、ということを実感させて頂きました。その思いをのせて我々も今後進んでいくんだという方向を示して頂く。そういう審議会でございますので、その言葉に真摯に耳をかたむけさせて頂きたいと思えます。今日は、本年度の最後ということで、答申を頂くことになっています。まだ、こども園をどうしていくかということについては、もう少し議論が続くのかなあと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。本日は、このような時間にお集まり頂きありがとうございます。よろしくお願い致します。

事務局 教育長ありがとうございます。続きまして、奥田会長からご挨拶を頂きたいと思えます。よろしくお願い致します。

3. 会長挨拶

会長 皆様こんばんは、本日もこのような時間にお集まり頂きありがとうございます。今、教育長からのお話にもありましたが、本日の会議が本年度最後の審議会になります。この会の最後に教育長に答申をお渡しさせて頂きたいと思えますので、皆様方引き続きご協力の程よろしくお願い致します。

本日、新聞記事でこども家庭庁の初代庁官が誰になるのかということがマスコミ等で話題になっていました。皆様もご存じかと思えますが、4月1日からこども家庭庁が設置されます。我々が今審議しています認定こども園を所管する国の機関になります。従来は、文部科学省や厚生労働省が子ども達の教育に関わってきましたが、それプラスこども家庭庁が設置されるということで、なぜかというとその背景には、我が国の少子化問題がありますが、それ以外に家庭における虐待が非常に増えている。また、ユネスコがこども幸福度調査をおこなっていますが、実は我が国の子ども達の身体的な幸福度は1位なんです、精神的な幸福度は、38か国中37位になっていました。今、我が国の教育に関わる課題は非常に多く、こども家庭庁を設置しなければならない状況になってきています。認定こども園というのは、家庭での教育と学校での教育の橋渡しの役割を今後より一層担っていかねばいけないという現状の中で、吉野町における認定こども園というものは、今後どのようなかたちで設置するのかまた、その教育内容をどうするのかということについて、今我々が議論していることが求められているのではないかと思います。引き続き、皆様にご協力頂きまして、より良い答申ができることを願っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

事務局 奥田会長ありがとうございます。それでは、規定によりまして、以後の議事進行につきましては、奥田会長にお願いしたいと思えます。奥田会長よろしくお願い致します。

4. 審議(1)

会 長 それでは、会議次第に沿いまして進めさせていただきます。(1)「吉野町立認定こども園の将来的なあり方検討について(案)」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料1】吉野町立認定こども園の将来的なあり方検討について(案)、【資料1】(案)差し替え資料をもとに説明……

会 長 ありがとうございます。それでは、今説明のあったことについて、委員の皆様から質問やもう少し教えて欲しいと言う様なことがありましたら、発言をお願い致します。
…… 意見なし ……

審議(2)

会 長 それでは、次の案件に移りたいと思います。審議(2)「吉野町立認定こども園の今後のあり方検討について(答申)」について事務局から説明をお願いします。

事務局 今、お手元に「答申書」「答申冊子」をお配りしております。

答申冊子につきましては、「先ほどの案を黒字に変更し、P25以降に参考資料として、諮問書、審議会設置条例、委員名簿、検討経過を追加しています。

それでは、「吉野町立認定こども園の将来的なあり方について」町からの「諮問」に対する吉野町教育振興審議会から「答申」を行わせて頂きたいと思いますので、奥田会長様、土居教育長 前にお進み下さい。

会 長 …… 諮問書読み上げ ……

どうぞよろしく申し上げます。

教育長 ありがとうございます。

会 長 この答申は吉野町教育振興審議会において、委員皆様方が慎重審議し答申というかたちにまとめさせて頂きました。特に幼児期の重要な時期において、子どもの人格形成において非常に重要な時期だと思えます。そういう時期において、どのような教育をするかに対しまして、町長部局とも連携して頂き、保育教育の内容、環境整備などを真摯に受け止めて頂き検討して頂くことをお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

教育長 貴重なご意見をまとめて頂きありがとうございます。きっちりと、基本方針に反映させて頂きたいと思えますのでどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。席にお戻り下さい。

審議(3)

会 長 続いて、審議(3)「その他」に移らせて頂きます。

今年度の最終回ですので、委員の皆様の方からの一言ずつ今回の感想なり、コメントを頂きたいと思えます。

杉村委員 アンケートで保護者からの貴重な意見を頂いて、すごく勉強になるなあと

というのが率直な感想。今回も、自分が子どもを育てる上で大切だと思うこと、また、今後の教育保育を検討する上で必要だと思われるものの間で、社会と繋がる力をつける教育、安全と安心な環境がトップになっている。教員の立場としてもそうなんですけど、安全・安心は、ハード的なところもあるが、人と人がちゃんと繋がっているから安全とか安心が得られるということ、社会と繋がる力、安全安心は、別けて考えるのではなく循環しているということを身にしみて感じた。

吉野町の子ども達の未来に向けての話し合いができたこと、すごく嬉しく思っている。今日お話し頂いた会長の言葉にもあるが、集団の中での学びは間違いなく力になると思う。その集団を保証していく方向に進んできたことはとても良いことだと思う。認定こども園から小学校に繋がるところで、連携という言葉をよく耳にする。特別な支援を要する子ども達だけでなく、全ての子ども達が園での学びを如何にスムーズに小学校で受け入れてくれるかということが、これから学習に向かう子ども達にとってすごく大切ではないかと思う。連携とは、必ず重なり合う部分があると思う。吉野町ならではの良さを活かし、小学校の先生が認定こども園に足を運ぶ、認定こども園の先生が小学校に足を運んで子ども達を繋いでいく。そんな取り組みが進んでいくことを願う。ありがとうございました。

吉野町は、現状を大切にしながら今後の見通しをもって子ども達、保護者、そして地域の方々が生き活きと過ごせるような環境づくり、また、様々な話し合いを積み重ねて頂きまして関係各者と連携しながら型にとらわれず、アップデートして頂いていると思う。吉野町の審議会に参加させて頂き貴重なご意見を聞かせて頂き本当にありがとうございました。

教育振興審議会に参加させて頂きまして思ったのが、さくら学園が開校して小中の連携が強化され9年間の一貫教育になったときに、子ども園が取り残されるのではないかという意見が保護者からリアルに聞こえていた。教育委員会がこども園の今後について、こういったかたちで考えてくれているということがわかったこと、それと熱い思いをもって子育て施策を推進して頂いていることについて勉強させて頂いて、保護者にとってあたたかい町にした頂いているのだなあということがよく分かった。すごく良い経験になりました。そのことを対外的に発信して頂いて、人が増えるような方向になればなあというのが正直な感想です。本当に今回参加させて頂きありがとうございました。

このような会議に参加させて頂くのも、今年度こども園の会長をさせて頂き初めてあった。これまでは保護者目線での園に対する見方だったが、今回会議に出席させて頂いて多角的な視点から先生方からの見え方、地域のサポートの方の見え方、専門の方々の意見などを聞かせて頂き、吉野町で子ども達をサポートするにあたって、現状すごく手厚いサポートをして頂いている

ことを感じた。改めてありがたく感じている。これから、子ども達を育てていく中で、小中一貫になったことで、こども園が子ども達の個性も含めて次のステップに送り出していけるような体制を検討していければと感じる会議だったと思う。ありがとうございました。

米谷委員　この先2年後、3年後に合併されるかどうか分かりませんが、その時通っている子ども達が、合併する前の方が良かったなあというような事にならないようにするのが一番かと思う。合併するということは、よりコンパクトになるということで、保護者のアンケートにもあったような安全面の対策もより集中してできると思うし、親世代の働き方もいろいろあるかと思うが、そういったソフト面での対応もより柔軟に今後はできていくのかなあと思う。子どもの数が100人程度キープできるような吉野町であって欲しいと思う。

木谷委員　この前も娘が保育士をしている立場から保育士のストレスや労働環境の改善について、いろいろ保育士の先生方をケアする専門の先生を配置して欲しいというような話をさせて頂いた。この前、TVで保育士の先生方がすごくストレスで自分がイライラしていたら、子ども達を叱ってしまいそれがとても辛いと言っていた。先生方が心豊かでハッピーであれば、子どもにおおきな心で接してあげれると思う。それと、子育ては家庭と学校だけではなく、地域と連携してやっていかなければいけないことだと思う。また、吉野町の広報の3月号で子ども達の人権啓発の川柳がでていて、すごく相手の事を気遣う川柳が掲載されていた。こども園の時に、子ども同士がいたわり合う心を育ててくれているのだなあ感じた。

吉中委員　吉寄委員の話の中での、集団の中での学びの重要性そして連携。私も全くそのとおりだなあと感じている。このような様々な立場の委員さんの視点から様々な意見を聞くことができ非常に勉強になった。先日、本校さくら学園に新1年生の体験入学会で、よしのこども園、わかばこども園、町外保育園のこども達、先生方がたくさん来てくれた。そのなかで、本校職員が、自分の名前をひらがなでなぞろうという体験を企画した。こども達は一生懸命、鉛筆で自分の名前をなぞった。担任は、一人ひとりに花〇をつけてくれていた。町外の保育士先生から、小学校ではこんなに手厚くきめ細かな指導をして頂いているんですねと指摘を頂き、私も初めて気づいた。先ほど連携とありましたが、いろんな視点で保育園の先生も含めまして皆様からのご意見を活かしながら学校も進めていかなければいけないと思っています。また、ありがたいことに様々な教育支援委員会ですとか様々な会合に出席させて頂き、そのご縁もあり3月1日に本校児童が大淀養護学校へ体験入学で受け入れて頂けることになった。ここでもまたこのような連携が始まり、教員が学ばせて頂き学校で活用することがすごく楽しみであるとともに、子どもも違う所の友だちとの体験を通して色んなことを学んでくれることと思う。大変有意義な活動を広げて頂いている。連携を大切にしながら答申にあることが

机上の空論で終わらないようにさくら学園でも日々取り組んでいきたいと思う。

山田委員 答申にあるように、子ども達のより良い成長を目指して環境を整えるということに対して、いろんな視点から考えさせて頂けたこと私にとって非常に有意義で私自身の視点も広がりを持つことができた。皆様に感謝している。今回は、吉野町のこども園のあり方についての議題だったが、子ども達の成長というのはこども園で終わることなく、私が今所属しているさくら学園に入学し、そして15歳になればさくら学園を卒業するという事で繋がっている子ども達の成長、こども園で立派に成長させて頂いた子ども達、次はさくら学園でお預かりしてより良い成長に繋げていく責任感を身の引き締まる思いで感じている。子ども達の成長に向けて一緒に頑張っていきたいと思う。

森本委員 毎日、園で子ども達や保護者の方と接しながら、様々な家庭の状況、子どもの状況をみながら過ごさせて頂いている。この会では様々な立場の委員の皆様から意見を頂いて、こども園に求められているものが改めて大きいということを実感している。これから先に新しい体制の整った園ができると思うが、それまでの間、現在の状況でできることを先生達と工夫しながら少しでも期待に応えられるように体制を整え協力しながら進めていけたらと思っている。いろんなご意見を頂きありがとうございました。

中山委員 3回の会議の中で皆様方からの様々な意見を聞かせて頂き、現場の人間としてこういうことを求められているんだということがあった。先ほどから、地域、保護者、小学校との繋がりを大切にしなければいけないということを感じさせて頂いた。三つ子の魂100までという言葉があるが、子ども達の教育の大切さが、小学校、中学校、高校と繋がっていくことを考えると現場の人間はもっとしっかりしなければいけないということを考えさせられた。この3月末で、こども園が始まって8年が経つ。その中で、携わってきた職員の一人としては今後吉野町の子ども達にとって何が大切かどういふうにすればよいのかというところを考えて良い方向に進めたらと思う。

会 長 ありがとうございました。予定していました本日の審議事項は以上となりますが、その他何かご提案するような内容はありますか。

…… 意見なし ……

無いようですので、本日の審議を終了したいと思います。

それでは、事務局にお返しします。

5. 閉会

事務局 奥田会長、議事進行ありがとうございました。

閉会にあたりまして、教育長より、ご挨拶をお願いします。

教育長 皆様、お疲れ様でございました。今回会長の奥田先生は毎回このために東京から参加してくれています。また、杉村先生も奈良から、河崎先生も遠いところからということで吉野町のことを思って力をお貸し頂いていると思っ

ています。改めてお礼を申し上げたいと思います。

立場はいろいろあるかと思うのですが、子どもをどうしていこうかということ、つい一人で悩んでしまうこともあるんですけど、皆で意見を共有しながらあるいは、意見を聞きながら考えることができるというのは、とても大切な機会であると思っています。子育てというものは、一人でやっていると本当にしんどいですが、このように皆で意見をだし合い考えることがとても大切だと思います。特に発達段階のなかで、こども園の年齢層小学校に入るまでに、どういう力をつけたいのかと非認知的能力等々いろいろありますが、そのことが小学校以降の教育にもものすごく影響を与える。小学校、中学校、高校に至ってまで、こども園の時の資質というのが影響すると私も思っています。大変大切な発達段階だと思っています。今、このように一定の集団を維持することが望ましいという答申を頂きました。このことを背景にこれから町長部局とも話しをさせて頂きたいと思っています。また、来年度以降も教育の中身についてご意見を頂きたいと考えていますので、引き続きご協力頂きますようによろしくお願い申し上げます。

事務局

ありがとうございました。それでは、今後のスケジュールについてご説明させて頂きます。本日の答申を受けまして明日、臨時の教育委員会を開催致します。教育委員へのご報告とご審議を賜りたいと思っています。その後、町長部局と教育総合会議を開催しご審議させて頂きたいと思っています。また、3月の議会においても報告させて頂きたいと思っています。12月にも中間の報告をさせて頂いております。令和5年度の早い時期に保護者の皆様にもご報告させて頂きたいと思っています。令和5年度については、基本方針の策定ということで保護者の皆様に子育てニーズ調査、専門部会による具体的な方策の検討、それぞれの園の特色を活かした方策を検討し、(案)を策定しまして審議会でご審議頂きたいと思っています。何卒、よろしくお願い致します。

それでは、これを持ちまして第3回の吉野町教育振興審議会を閉会致します。本日は、誠にありがとうございました。

